

A Thought on Our Life through One Spiritual View Point

スピリチュアルな見解における人生についての一考

ウォータース 雅代

WATERS Masayo

要約 : Brian Weiss は、催眠療法で患者の記憶を過去にさかのぼりながらの治療中、偶然患者の前世での出来事が現世の生活にいろいろな影響を与えているという事を発見した。人生が一度きりであると考えより、人は何度も、人生という経験を積むために、この地上に生まれてくると考えてみると、より豊かな生を送ることができるのではないだろうか。いつの日か科学の力が、今はまだ知りえない部分の多いスピリチュアルな世界をより明らかにしていくであろうと信じる。

Keywords: reincarnation, Brian Weiss(Brian L Weiss, M.D. Chairman Emeritus of Psychiatry at the Mount Sinai Medical Centre in Miami, Florida), present life, previous lives, hypnotherapy,

靈魂転生、ブライアン・ワイス (ブライアン・L・ワイス博士、フロリダ州マイアミビーチにあるシナイ山メディカルセンターの精神科部長兼マイアミ大学医学精神科の教授)、現世、前世、催眠療法

The idea of reincarnation has been a fascinating thought for me for a long time. It is easier for me to believe this way of thinking in order to think a lot about my life now. If life is only once, it is too short and sad I think. But if you believe that you can keep coming back on to this earth to live, experience life and to learn over and over, you start looking at it with more depth and colors to make it more meaningful and beautiful to think about.

We hear and say that what goes around comes around. So what you are getting now is what you have done once. It could be something that you can recall sometime ago in this lifetime or could have been something done in another lifetimes.

Brian Weiss wrote a story about this relationship between your present life and previous lives. Wise says, "The people around you in this lifetime were also related to you somehow in the previous lives too." I have read something very similar to this in

different books. I have read a few books about the experiences of people who came back from death. Some were biologically dead for few hours. In Hindu and Buddhism, there is a word which has a similar meaning to this. It is called karma.

Dr. Weiss wrote a story about this based on the real experiences of one of his patients at the Mt. Sinai Medical Centre. He accidentally encountered one patient's previous life when he was giving her hypnotherapy. The purpose of this treatment was to find out the course of her physical condition without a proper assumed cause after a physical check up, which did not show any physical reasons for the symptoms that suffered her.

This was an introduction as to how he discovered his therapy to reach one's past lives to cure their problems that they suffered. When the hypnosis takes you to the moment of one of your lives that has been causing you some physical effect, you somehow cure yourself. You are experiencing the pain again and also looking at yourself going through whatever you were doing at that time. If you are hitting someone, and at the same time you can experience the pain that the other person is feeling by being hit. You would realize what you have done. If you are the person being hit or kicked or whatever being hurt by someone, you would be looking at yourself going through this happening again and having the pain again, but also you are feeling what is in the mind of the person who is treating you like that. Either way you experience both positions exactly and are cured after that.

This is very similar to what people said who had so called near death experiences. Most of the people who experienced near death change a lot after their experiences. They say that you experience every moment of your life again from the start to the end as if you are looking at a video tape in the fast forward mode. And also you are not only looking at it, you also feel every moment of what other people near you are feeling because of you. You are going through other people's pain and emotion as synchronized to your own.

It would be great if you could have the same experience as the near death experience but without risking your life. This could be a great method to be used for criminals to stop them repeating their crimes again. If you feel other people's pain, would you still hurt them? If the criminals can experience the victims fear, pain and disappointment, it could reduce many crimes.

There will be more knowledge and understanding on this kind of unknown phenomena from now on. It has probably always been known by some people and

suspected by many people. However the difference that it will make when we have proper scientific data will be phenomenal.

A long time ago people did not know a lot about the things around them such as bacteria, electricity, magnetic force etc. They could not see or measure those things but now we can. There are many things that you cannot see or feel but they are still there. Even children today know of these above things that exist around us even if they cannot see it with their eyes.

So I believe one day maybe we can see our souls and find out what is the purpose of our lives here on the earth. Maybe to know that this life now with this body is only one stage of an eternal succession of lives.

スピリチュアルな見解における人生についての一考

霊魂転生という考え方は、長い間私の興味を強く引き付け続けてきた話題である。今現在の人生についていろいろと考える時、転生というひとつの考え方を信じることのほうが私にはより容易いことである。人生が本当に一度きりであるとしたならば、それはあまりにも短く悲しすぎる。だがもしも、また人生を経験し学ぶために、繰り返しこの地球に生きるために戻ってくる事ができるとしたならば、人生というものについて思考する時、より深くより色鮮やかに、より多くの意味をもった素晴らしいものとして考えることができるのではないかと思う。

我が身から出たものはやがて我が身に帰るといわれるが、そのように、今私たちの身に起こっている事は全て、かつて私たちが行った事だということである。それはこの現実の人生において思い出す事ができる出来事かも知れないし、あるいはいわゆる前世という過去の人生の中で為された事なのかも知れない。

ブライアン・ワイスは、人の現世とその前世との関係に関する物語を書いている。ワイスは、「この人生でかかわりのある人々は、以前の人生、すなわち前世においてもかかわりのあった人々である。」と述べている。私はこれまで、この考え方に大変類似した内容を、異なった書物で読んだ事がある。そのうちの数冊は、一度死んだ状態になってから生き返

った人々の体験に関するものである。中には、臨床医学的に数時間、死亡した状態であった人の体験談もある。

ヒンドゥー教や仏教にはこのワイスの言葉の内容に類似した意味を持つ言葉があり、それは「カルマ」というものである。

ワイスは彼が医師として勤務していたシナイ山メディカルセンターでの、彼の受け持ち患者のひとりに起こった実際の体験をもとにして、物語を執筆した。その患者に催眠療法を行っていた時に、偶然、患者の前世に遭遇したのである。そもそもこの催眠療法の目的は、臨床的な検査結果が患者の症状の原因となるものを見つけ出せなかったのを踏まえたうえで、患者を苦しめている身体的症状の原因となりえる心理的原因を探ることであった。

物語は、ワイスが、どのようにしてその患者が苦しんでいる現世の病を治療するためにその患者の前世というものに辿り着き、治療法を発見したのかという事を紹介するものである。それは、催眠によって患者の意識を過去へ過去へと導き、ついには生まれる以前の記憶、すなわち前世までさかのぼる。現在何らかの身体的症状の原因となっているものが存在する前世の中の一つに入り込んだとき、それによって病は癒されるというものである。催眠の中では、現世の病気の原因となった苦痛や行動を体験している自分と、それを傍観している自分が同時に存在しているのだ、とワイスは書いている。誰かを叩いている自分がいたならば、同時に叩かれている人の感情や痛みをそのまま自分のものとして感じる自分がいるのである。相手の苦痛を感じて、自分がした行為を認識するはずである。自分がもし叩かれたり蹴られたり、だれかに苦痛を与えられていたのであれば、その状況と苦痛を再体験している自分と、打ちのめされている自分を傍観している自分がいる。そして、さらにそこでは自分にそのような行為をしている人間の心の中が手に取るようにわかるのであるという。どちらの立場にいたにせよ、傷つけられる者と傷つける者、その両方の心の中が正確にそのまま体験されて、催眠治療終了後、患者は癒されているというわけである。

この事は、いわゆる臨死体験というものをした人たちが話す事と類似している。臨死体験をした人々のほとんどは、その体験後人間的に大きく変わっている。彼らによると、まるでビデオテープを早送りしているように、それぞれの人生の最初から最後までを一度に見るといふのだ。単に見ているだけではなく、自分の周りの人が自分の言動によってなにを思っているのかも同時にすべてわかってしまうのである。自分のその時々感情や苦痛と、それにかかわる人たちの感情と苦痛の両方が同時進行で体験されるのである。

実際に生命の危機に直面する事なしに、この臨死体験と同じような事を体験できたらどんなに素晴らしいであろうか。この方法が可能ならば犯罪者に再犯を思い止まらせることが可能ではないだろうか。もし自分が与えている他人への苦痛を、そのまま自分の苦痛として感じるとしたら、それでも人を痛めつけるだろうか。犯罪の加害者が、犯罪被害者の恐怖や苦痛そして絶望を体験したならば、多くの犯罪を減らす事になるのではないだろうか。

今後このような種類の未知の現象に対して、より多くの知識が寄せられ、より深い理解へとつながっていくだろう。このようなことへの知識と理解はすでに得ているという人達もいれば、それについて疑わしいと思っている人達も多いであろう。いずれにせよ、根拠となる科学的なデータを得る事が、私達の生活に与える変化は素晴らしいものではないだろうか。

人々は以前、バクテリアや電気や磁力のような私達を取り巻く自然の中に存在しているものについてあまり知識がなかった。そのようなものを見ることも測定することも、できなかった時代があるが、今の私たちにはそれが可能である。実際に目で見たり、手で触れて感じたりできないものは今でも多く存在している。現代では子供達でさえも、電気のような目に見えない物事が私たちの周りには存在していることを知っている。

故に私は信じている。私達の魂というものを見る事ができる日が来るかも知れないという事や、この地球という場所における私達の人生というものの目的が分かる日が、いつか来るかも知れないということを、私は信じている。ひょっとしたら、今のこの肉体でこの人生を送ることを知るという事が、永遠に続く生命体の、ひとつの段階に過ぎないのかも知れない。

参考図書

ブライアン・L・ワイス著 山川紘也・亜希子訳『前世療法』『前世療法②』 PHP 文庫、1997

ブライアン・L・ワイス著 山川紘也・亜希子訳『魂の伴侶ーソウルメイト』 PHP 文庫、1997

飯田史彦著『生きがいの創造 “生まれ変わりの科学” が人生を変える』 PHP 文庫、1999

池田香代子 再話 C. ダグラス・ラミス 対訳 『世界がもし100人の村だったら

If the world were a village of 100 people』 マガジンハウス、2001

立花隆著『臨死体験 上』『臨死体験 下』文芸春秋、1994

E. キューブラー・ロス著 鈴木晶訳 『「死ぬ瞬間」と死後の生』中央文庫、2001

ジェイムズ・レッドフィールド著 山川紘也・亜希子訳『聖なる予言』角川文庫、1994

ニール・ドナルド・ウォルシュ著 吉田利子訳『神との対話』サンマーク出版、1997